

図書館職員として一年をふり返って

小野 目 依

<<はじめに>>

私は 2007、8 年の別府大学司書講習にて司書資格を取得した。大学院卒業後、御縁あって本年より別府大学附属図書館の採用をいただき、2009 年は私にとって図書館員として、また社会人として始めて過ごした感慨深い年となった。非常に濃厚だった 1 年を改めてふり返り、個人での業務や図書館企画の取り組みについて、簡単ではあるがまとめてみようと思う。

<<個人の通常業務>>

基本的な業務として、現在私は新着図書の蔵書登録を担当している。継続図書や購入・立て替え払いの図書が中心であり、本年度では 4 月中旬から 2 月中旬まで 3200 冊あまりの登録を行った。作業を効率よく正確に行うことは常に心掛けてはいるが、書店発注から到着までにかかる日数など、書店各社との連携も必要である。加えて紙伝票からオンラインでの発注へと移行しつつあり、処理手順にミスのないように徹底していきたい。

また業務とは異なるが、11 月に行われた情報検索基礎能力試験を受験し、図書館職員に必要な情報検索能力の向上を目指した。試験の 1 ヶ月前より皆上先生、石井先生方が毎週土曜日に勉強会を開いてくださるなどお力添えもあり、司書講習受講者や司書課程の学生らとともに参加し無事合格することができた。

<<図書館全体の取り組み>>

次に、2009 年度に図書館全体に関わった行事や業務を月ごとにまとめてみる。

	行事名	内容
4 月	シラバス掲載教科書・参考図書のリストアップ	2009 年度大学・短大シラバス内で、授業ごとに掲載された教科書及び参考図書計 340 冊をリストアップ。未蔵書 259 冊を購入し、2 階閲覧室シラバスコーナーにて配架中。今後も新年度のたびに更新する。
5 月	マンガコーナー設置	2008 年度に登録された「手塚治虫漫画全集」を 2F 閲覧室マンガコーナーに配架。本年では「三国志（横山光輝）」「風の谷のナウシカ（宮崎駿）」などのコミックが追加された。
7 月	選書ツアー	図書館配架の図書を学生が書店で直接選出するツアー。7 月 4・8・11 日の 3 回にわたって行われた。（詳細後述）
	オープンキャンパスでの図書館開放	別府大学のオープンキャンパスにあわせ、図書館も独自の企画で学生を招いた。（詳細後述）
10 月	大学院生オンライン選書	7 月の選書ツアーにて、より専門的な図書を購入したいとの意見があったため、院生に限りオンラインでの図書注文を行った。
	1 号館雑誌紀要移動	1 号館書庫にて大量に保管していた大学・短大紀要を 39 号館の

		教室に移動し、持出可とした。(12月3日破棄処分)
11月	ワロンルーム開設	3F レファレンス室をグループ学習室として開放、「ワロンルーム」と命名した。複数人で意見交換しながら学習を行うことが可能となった。
	リクエスト集中募集	学生にリクエストを利用してもらうため集中募集期間を設け、チラシ配布や声かけを行う。
12月	福岡図書館・博物館見学ツアー	司書課程の学生・教員・図書館職員参加で、福岡市立図書館、福岡市立博物館及び九州大学伊都キャンパス図書館の見学ツアーを行った。
1月	朝日新聞縮刷版 注文図書登録	年末から年始にかけて図書館及び学科で図書を最終注文。図書館は500冊程度の選書を行った。

以上のように、通常業務に加えほぼ毎月何かしらの企画や行事が行われていた。これらの行事は今年度に入って新たに企画されたものがほとんどで、進行は手探りの部分が多くあった。そのため参加人数の調整や準備の効率化など課題が残されているが、アンケートの結果や感想などで概ね好評の意見を多くいただくことができた。実験的ではあったが、今回の経験をベースにし、来年度も引き続き催していければと考えている。また筆者自身、このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝するとともに、ぜひ今後の図書館利用に生かしていきたいと考えている。

<<新規行事と企画進行>>

次に、図書館での新たな試みである選書ツアーと、ツアーの内容を展示したオープンキャンパスでの企画を取り上げる。準備段階からの取り組みや学生からの感想、反省点などをまとめる。

◎選書ツアー

まず選書ツアーとは、学生が書店に直接出向いて図書館所蔵の書籍を選んでもらい、日ごろ図書館職員が行っている選書作業を体験してもらおうという試みである。学生自身が選んだ本を配架することで、図書館をより身近な場所として感じてもらうとともに、学生が普段どのような書籍を図書館に求めているかを知る機会でもある。今回行ったツアーの日程等は以下のとおりである。



バス車内での説明の様子

日時 平成21年7月4日(土)、8日(水)、11日(土)

場所 4・11日：紀伊國屋書店 大分店(あけのアクロスタウン二番街2F)

8日：ジュンク堂書店 大分店(大分フォーラス7・8F)

参加人数 各学科(学部9・大学院5・短大6)×2名、フォーブル2名 計42名

担当職員 4日：吉岡、小野 8日：吉岡、立花 11日：石井、川野

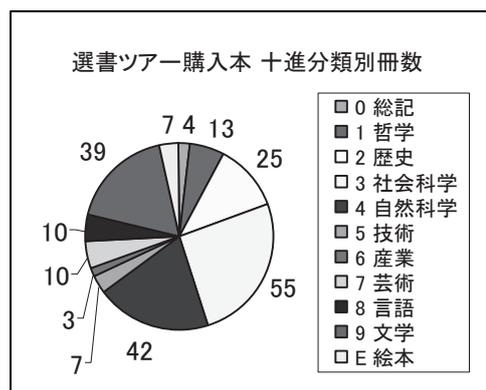
予算 1人あたり1万円程度

3日間の日程で1日20名前後の学生を職員2名が引率、大学から書店までの往復は大学バスを借りて移動した。選書時間は1時間半程度行い、3日間で最終的に215冊を選書・購入した。

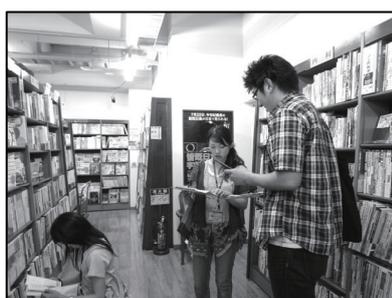
選書ツアーで重要となってくるのが、対象本と対象外の本をどこで線引きするかである。今回は原則、学科に関連する書籍を対象とした。参加者も学科で決めていただいたこともあり、「学科の学生が卒業論文や授業で使用できるもの」がひとつの判断基準となったので、漠然とではなく目的を持って選書が行

えたのではないだろうか。分野別に見ると教育、保育、食物、歴史学、文学、経営学、福祉など学科に関わる図書が主となっており、入門書やイラストの豊富なものが多く選ばれていた。またそのほか図書館に必要なと感じた書籍についても選書可としたため、文芸書や自己啓発関連の書籍なども購入されていた。

対象外のもの、雑誌、問題集、視聴覚資料、コミック、ライトノベル、シリーズものの途中の巻、既所蔵の図書とした。最終的な購入の判断は図書館が行うが、正当な理由があれば選書者の判断を尊重するとした。重複や問題集と判断したものは数冊見られたが、内容面で購入を見合わせたものは無かった。また所蔵の有無については、選書中に各自で携帯電話のiモードを利用し、携帯版OPAC画面からISBN入力で検索を行う方法を伝えた。ただし既蔵書であっても研究室貸出であれば選書は可能とし、貸出先が研究室か学生かは購入の段階で図書館職員が確認するとした。



携帯版 OPAC 画面



書店にて選書中の学生

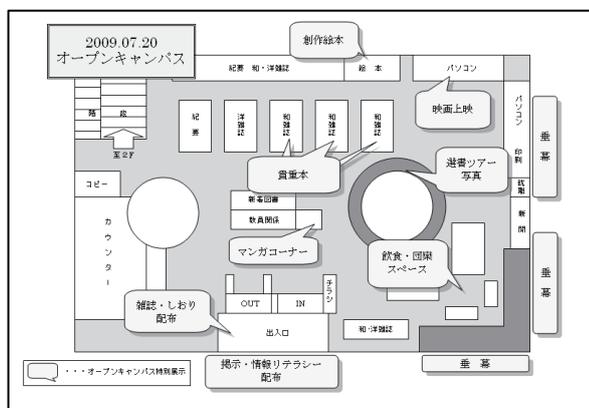


書店前での集合写真

今回はツアー終了時にアンケートを行った。感想欄には個人の経費ではなかなか買えない本が買えてよかった、次回もあればぜひ参加したい、今後も続けて行って欲しい、という内容が多くあり、概ね好評を得られたと思われる。また1人1万円ではなく、学科で2万円という枠組みにした方が選びやすい、書店の配置図があったほうがよい、事前にツアーの詳細を説明して欲しかった、との意見もあり学生と図書館との事前の話し合いが必要と思われる。今回選書をさせていただいた紀伊國屋とジュンク堂では置いている本の傾向の違い、一般書の多い書店では時間・予算がちょうど良い、あるいは多いという感想が多かったのに対し、専門書が多い書店では時間・予算が少ないと感じた学生が多かった。専門書の点については院生に限って、後日オンラインでの選書を行い、一般書店では入手しにくい書籍を注文することで補った。対象本・対象外の基準は7月の選書ツアーと同様である。

全日通して大きな混乱もなく終了した選書ツアーであるが、学生との細かな行き違いが多くあったことが反省点である。

図書館から学科を通しての通達だけでなく、学生達と直接の打ち合わせを行わなければならないと感じた。



オープンキャンパス展示見取り図

◎オープンキャンパスでの図書館開放

次に7月20日に行われたオープンキャンパスでの図書館展示についてまとめる。オープンキャンパスでは図書館を開放、1階にて貴重書・絵本の展示、マンガコーナー、ミニシアター、雑誌・しおりの配布、選書ツアーの図書・スナップ展示、またティータイムのスペースを設け高校生との交流を行った。それぞれの展示を職員が責任担当し、協力しながら準備を行った。私は図書館の円柱掲示板を利用し、選書ツアーコーナーを製作した。

掲示板は円柱に取り付けられており、模造紙にツアーの説明とスナップ写真を掲載、ソファと荷物置き台に選書した図書を配架した。また数人の学生に自分の選書した本の紹介やレビューを書いてもらった。

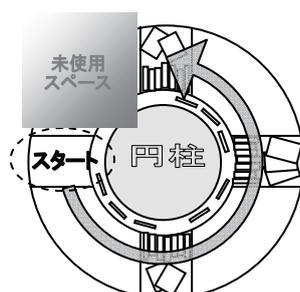
展示期間がちょうど試験や夏休みをはさむこととなったが、忙しい中でも展示に目を留めたり図書を手に取ったりする学生や教職員の方々を見ると、達成感を得ることができた。また、選書ツアーに参加した学生が図書館に足を運んでくれるようになったと感じている。お互いに声を掛け合えるようになったのは、ちょっとした変化ではあるが大きな成果と言えるのではないだろうか。



選書ツアーコーナー展示



選書本と学生によるレビュー



円柱掲示板の展示案

<<おわりに>>

以上、2009年度の図書館の主な業務をふり返ってみた。あっという間に過ぎた1年はとても充実しており、図書館の一員として微力であっても

サービスの向上に貢献できていたのなら幸いと感じる。来年度の図書館はまた新たな形でスタートする。一年の行事計画と中・長期的な目標を明確に持って日々の業務を確実にこなしていきたい。特に学生とのコミュニケーションを深めていき、企画や展示なども協力して製作していければと考えている。

(おの・めい 別府大学附属図書館)